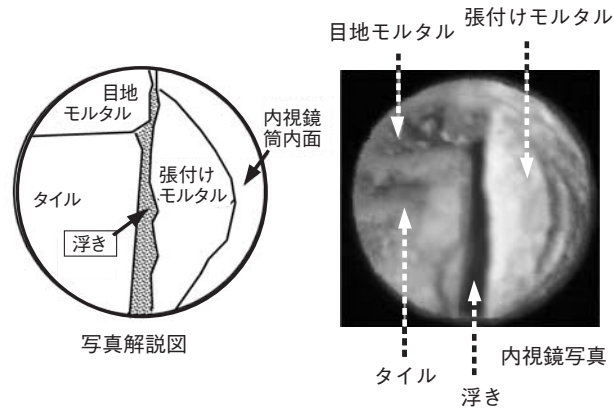


問題箇所をピンポイントで検出し  
必要最小限かつ適正な補修案をご提案します。

当協会の認定した、外装タイル打音調査技術者は全く問題のない箇所と、要チェック箇所を的確に識別して、段階的に問題箇所の具体的な状況を究明していきます。したがって、問題が検出された場合でもその範囲を必要最小限に絞り込むと同時に、張替え補修が生じた場合などはメーカーの協力を得て、既存タイルとの色合わせを行うなど、万全の補修計画をご提案します。



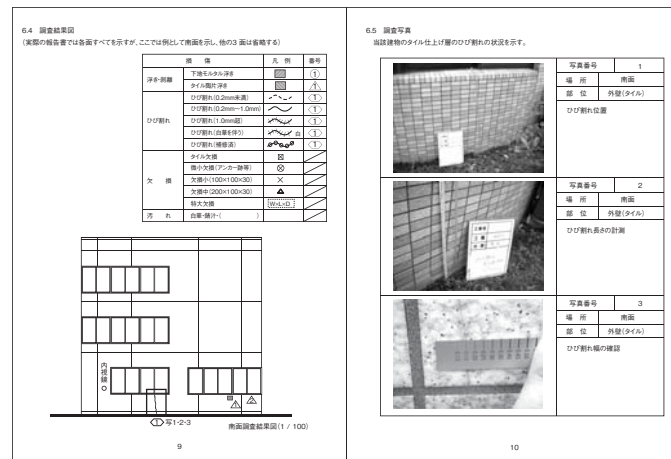
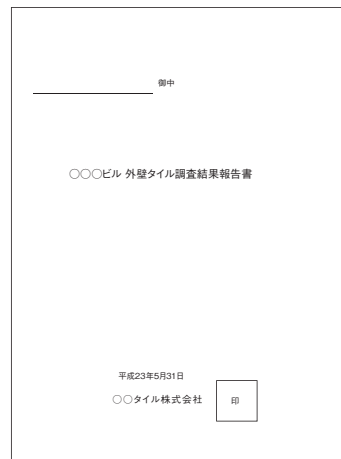
補修タイルは見本焼きを提出し、現場で既存タイルとの色合わせをして了承を得、高度な復元・補修を行うこともできます。



写真解説図

内視鏡写真

〈外壁タイル調査報告書・作成例〉



お問い合わせ・お申し込みは  
フリーダイヤル **0120-80-1141**



本 部/名古屋市東区代官町39番18号 〒461-0002  
TEL(052)935-7941 FAX(052)935-4072

外壁タイル打音調査は  
タイルのエキスパートに





## 一般社団法人 全国タイル業協会とは



タイル業の近代化と改良工法の開発およびその普及を目的に設立された団体です。工事会社をはじめ、メーカー、商社など約300の関連企業や団体が会員となっています。これまでにさまざまな施工法の研究・開発・普及を行い、多くの現場で採用されてきました。現在主流とされているタイル施工法のほとんどは当協会が開発された物です。また、タイルの剥離・剥落を防ぐために施工、調査、補修などに関する委員会を設置し、問題解決にも当たっています。同時に、タイルの安全性、信頼性をさらに高めるため「外壁タイル打音調査技術者」などの人材育成にも積極的に取り組んでいます。

## 定期報告制度へのタイル業界の取り組み



一般社団法人  
全国タイル業協会  
会長 有代 匡

建築基準法第12条に基づく定期報告制度の改正により、「特殊建築物の外壁は、10年毎の全面打音調査」が義務付けられておりますが、当協会は、製造、販売、工事における「タイルのプロフェッショナル」として、この打音調査の中心的な役割を果たすことが責務であると考え、一昨年より「全タ協・外壁タイル打音調査技術者」の資格制度を設置し、標準的な外壁タイル調査方法の統一（調査フロー、実施方法等）と調査技術者の養成に向けた講習を行い、筆記試験、実地試験を経て、調査技術者を認定いたしております。

設計者の皆様、特殊建築物等調査資格者の皆様におかれましては、定期報告制度に基づく「タイル外壁の全面打音調査」では、是非当協会認定の調査技術者をご利用頂き、正確な診断結果に基づく定期調査報告をお願いしたいと存じます。



名古屋工業大学大学院教授  
(建築・デザイン工学科)  
日本建築学会 JASS19 主査  
河辺 伸二

「鉄筋コンクリート建物の外壁にタイルを張る技術は、日本のタイルの文化」です。しかし、タイルの剥落事故が懸念され、剥落安全性の高い施工方法や維持保全技術とともに、タイル外壁の適切な調査診断が求められています。

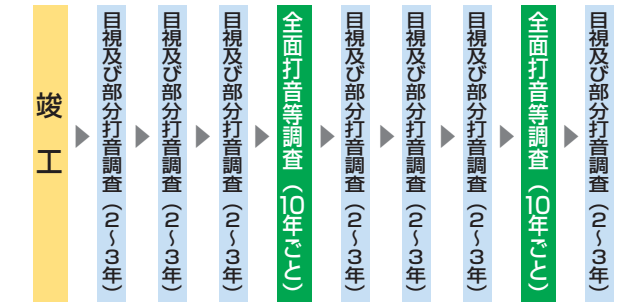
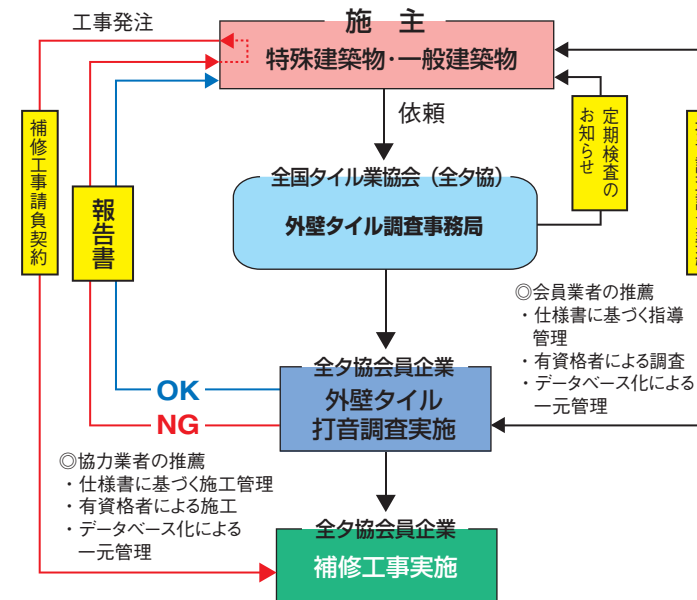
平成20年4月に建築基準法の定期報告制度が改正され、タイル外壁の定期的な打音調査が義務付けられました。これを受け、全国タイル業協会は、平成22年9月に「既存建築物の外壁の調査と調査結果判断について」を発刊し、タイル外壁の適切な調査と維持保全のため、その方法と結果判断及び対策についての考え方を整理しました。また平成23年6月に発刊した「外壁タイル打音調査実務マニュアル」は、タイル及びその施工を熟知しているタイル施工業者が、「目視及び部分打音調査」と「全面打音等調査」において、外壁タイルの調査を行う際の標準的な方法を示しており、このマニュアルに準じた調査結果は、施主、居住者団体、設計者、建築業者等に対してタイル張り壁面の適切な報告となり、補修・改修につながる重要な資料となります。

一方、剥落安全性の向上をめざし、関連業界と関連学会の研究結果による「有機系接着剤によるタイル後張り工法」が普及しています。有機系接着剤によるタイル後張り工法のタイルと接着剤に関して、平成21年12月に、全国タイル工業組合は「外装タイルと有機系接着剤の組合せ品質保証制度：Q-CAT」を発足させました。さらに、平成24年7月に日本建築学会建築工事標準仕様書19陶磁器質タイル張り工事（JASS19）も改定となりました。

各種仕様書に基づく施工、タイル技能工による定期調査、適切な維持保全により、タイルのはく落事故を防止し、「日本のタイルの文化」を永く次世代に継承したいと思います。

## 当協会のネットワークを活用し、全国各地へ 質の高い調査業務をお届けできます。

【外壁タイル調査フロー】



当協会発行の「既存建築物の外壁の調査と調査結果判断について」（平成22年9月）と「外壁タイル打音調査実務マニュアル」（平成23年6月）



## 遠隔からの光学検査等では掴みきれない異変も察知。 全面打音調査は、いま最も信頼度の高い調査方法です。

建物外壁へのタイル施工法は、後張り工法、先付け工法に大分類され、張付け材料や留め付け材料により、モルタル張り、乾式工法、接着剤張り、金具留め工法などに分類されます。

全国タイル業協会では、こうした施工法をさらに細分化し、それぞれの施工法のマニュアル化、躯体・下地からタイル張りに至るまでの各工程での詳細な管理指針等を作成し、安全・確実なタイル外壁づくりを推進して来ましたが、さらに、各工程で発生しがちなリスクを防止する技術研究にも取り組んでいるため、既存建築物の10年点検における打音調査についても、タイルの裏側の「どこで」「どのような」変化が生じているかを的確に検知することができます。

こうした知識と技能を継承して、定期的に「打音調査技能講習・実習」を行い、打音調査技術者を育成しています。

